

平成 30 年度第 2 回岡崎市交通政策会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

平成 30 年 9 月 10 日（月）15 時 30 分 ～ 17 時 00 分

2 開催場所

岡崎市役所東 2F 大会議室

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（21 名）

伊豆原	浩二	委員	（愛知工業大学 客員教授）
松本	幸正	委員	（名城大学 教授）
西川	雄一郎	委員	（愛知環状鉄道(株) 運輸部 管理課 課長）
吉岡	実	委員	（名鉄バス(株) 運輸部 運行課 課長）
鋤柄	徹	委員	（名鉄東部交通(株) 常務取締役営業本部 本部長）
河口	恒徳	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長(名鉄岡崎タクシー)）
小林	裕之	委員	（(公社)愛知県バス協会 専務理事）
			※金丸 健司 事務局長 代理出席
中村	彰宏	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事）
前山	敏昭	委員	（岡崎商工会議所 交通部会長）
神尾	明幸	委員	（岡崎市総代会連絡協議会 会長）
鷺山	幸男	委員	（岡崎市老人クラブ連合会 会長）
加賀	時男	委員	（岡崎市障がい者福祉団体連合会 会長）
宮本	一彦	委員	（岡崎市六ツ美商工会 会長）
吉口	栄次	委員	（額田地域生活交通協議会）
四辻	純也	委員	（国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課長）
			※岩井 亜弓 係長 代理出席
杉本	忠久	委員	（国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官）
榊原	仁	委員	（愛知県 振興部 交通対策課 主幹）
			※平岩 聡史 主任主査 代理出席
森部	浩幸	委員	（愛知県 西三河建設事務所 維持管理課長）
西崎	隆彦	委員	（愛知県警察 岡崎警察署 交通課長）
寺田	雄司	委員	（岡崎市 副市長）
山本	公德	委員	（岡崎市 総合政策部長）

(2) 欠席委員（1 名）

河合 貴夫 委員 （名古屋鉄道(株) 東部支配人室 営業総務課 課長）

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

本多 徳行（地域創生課長）、杉山 幹昌（副課長）、井尻 智久（主任主査）、平松 隆（主任専門員）、細野 雅人（主査）、湯口 航平（主事）、徳原 誉人（事務員）

5 傍聴者、随行者等

4 名

6 会長あいさつ

（内容省略）

7 議題

(1) 公共交通に親しむ日の実施について

公共交通に親しむ日の実施について、資料1により説明をした。

＜以下、各委員の意見等＞

委員： 毎年実施している公共交通に親しむ日についてだが、支局のメルマガ（10月号）に掲載したいので記事の提供をお願いしたい。

また小学生の運賃無料化を行うため、会場から岡崎市内のスポット（東公園等）にバスで行けるようルートの提供を行ってみてはどうか。

マイ時刻表の活用について、コーナーに提示するだけでなく、作成支援まで取り組んで欲しい。作成支援員等の設置も検討してほしい。

事務局： 公共交通で巡る市内のスポットは観光推進課で昨年度行っていた。今年度もこの機会にバスの乗ってもらえるよう策を考えていきたい。

一から時刻表を作ることは難しい場合もあるため、作成支援についても引き続き研究を進めていきたい。

副座長： 作成の支援は大切。対話しながらやることは重要だが、人員配置等負担も大きい。地元の大学生に協力を依頼してみたらどうか。何かそのようなことは行っているか。

事務局： 岡崎商業高校の生徒が毎年協力してくれる。

副座長： 高齢者や子どもと関わりながら説明を行うことは学生にとっても人間的な成長につながる。市内にはいくつか大学があるので大学生の活用も是非考えてほしい。

額田のバス紹介コーナーも同様に人を立てて欲しい。額田の特産品等の販も一緒に実施できるとさらによいと思う。

座長： 小学生がバスに乗ったときの体験記等、何か形に残したい。わくわくカードを使うことでこのような体験ができたという子どもたちの乗車体験を大切にして、バスに乗る次の世代の育成につなげてほしい。

見学会に協力する愛環や名鉄バスの方は何か意見等あるか。

委員： 見学会のスタッフとして毎年参加している。子どもに喜んでもらい、公共交通に親しんでもらうことが大切。毎年、笑顔で参加してくれる子どもや質問をしてくれる子どもの姿が印象的である。今年度もぜひ協力してより良いものを作っていきたい。

委員： 親子で記念撮影をする際は非常に和やかな雰囲気になる。バスや電車で親しめる機会を生かし、今後も協力し、喜んでもらえる企画を作っていきたい。

座長： 受け入れる準備等大変だとは思いますが頑張ってください。また委員の皆様も、周囲の方々にこの事業を紹介してもらえるとありがたい。それでは公共交通に親しむ日の協議事項である小学生運賃無料化についてご承認いただいたということによろしいか。

委員： 異議なし。

8 報告

(1) 額田地域コミュニティ交通について

額田コミュニティ交通について資料 2-1～2-5 により説明をした。

<以下、各委員の意見等>

副 座 長： 今の報告で額田地域のコミュニティ交通が厳しい状況にあると分かった。平成 28 年度に比べ平成 29 年度は乙川バス以外の利用者数が落ち込んでいるが原因は何か。また平成 30 年度の途中経過ではあるが、現時点でどのような状況なのか。厳しい状況で一人当たり市費負担額が 7,000 円、8,000 円、10,000 円等実績が出ているが、経費が増大していく中で違った輸送方法を検討していくべき。今後どのように輸送方法を検討していくつもりか。新運行検討に向けたプロセスを教えてほしい。

事 務 局： ささゆりバスを例にあげると、433 人減少しており、地域への聞きとりからその理由として、今までバスに乗れていた方が乗れなくなったと考えられる。定期的な利用者が 2, 3 人減少すると年間 400 人減少となる。平成 30 年度は平成 29 年度と比較すると増加傾向にあるが、平成 29 年 4 月、形埜地区は平成 29 年 10 月に変更した運行形態に利用者の方が慣れてきているのではないかと考えている。今後のプロセスについては、地域の方からも「デマンド」という声が出ているので、デマンドを含めた様々な運行方法の、メリット・デメリットを提案し、地域の方々と一緒に検討していきたい。

副 座 長： 一度提案するのを止めてみてはどうか。情報は全部提供するがそれ以降の話し合いについては、住民の方々に投げるということも大切である。そのような形式をとっていかないと、住民の方々の考えが育たない。自分たちの集落の将来について自分たちで考える。そのきっかけとして公共交通を切り口に考えてもらう。そのような形を考えていく時期である。

委 員： 数字を見ると年々利用者が減っているのが分かる。ここからさらに深刻になっていくと思う。アイシンとスギ薬局の「チョイソコとよあけ」という事例を新聞で見たが、バスを無理に運行していく必要があるのか。平均乗車が 0.9 人であればタクシーの方がよいのではないか。抜本的な見直しをしていかないと厳しい。空気を運ぶという状況にもなりかねない。

事 務 局： 「チョイソコとよあけ」について豊明市に視察に行った。今後も豊明市の動きを注視していきたい。事務局としても色々な運行ツールを他市事例と共に研究していきたい。私たちだけだと情報も不十分などところがあるので、皆様からも情報提供をお願いしたい。

座 長： デマンド運行については中部運輸局で 2 年にわたって研究した報告書が 2 冊あるが、その中に成功事例等載っている。その事例等を地元の人に伝え、理解できるところまで落とし込んでほしい。乗合タクシーの乗合率が高い御嵩町のやり方を聞いてみてはどうか。行政があまり出すぎずに行う政策について当時の担当者に聞いてみるとよ

い。御嵩町は乗合率が昨年だと 1 台当たり 2.4 人ほどあった。

またデマンドは、予約があれば運行する。一人一人で使いだすと乗合率が低下しコストがかかる。どのくらいのコストがかかるのかも含めて情報提供していく必要がある。「情報提供は行政が、選択・話し合いは地域のみなさんで」、という形をとってみてはどうか。御嵩町の住民を招いて、話を聞いてみる方法もある。委員の方々も情報が入ったら事務局へ提供するなど協力をお願いしたい。

座 長： 額田地域についてだが、何かあるか。

委 員： 今後の見直しの中で多様な運行形態を比較検討していきたい。住民からの話で自宅からバス停までの道のりが厳しいという話があった。豊田の旭町では本人が総代に話して理解が得られれば、バス停の位置を変えられるという話も聞いたことがある。全ては無理だが、そのような形も必要なのではと考える。今後は運転免許証を返納した高齢者が増えてくる。先日、形埜地区で敬老会があったが、75 歳以上が 300 名、小学生が 63 名いた。高齢者が今後増えていく中で少しでも高齢者が使いやすいバスを目指すために 3 年といわず柔軟に運行を変えられることが大切なのではと考える。

座 長： 全員で考えることや柔軟性が大切。ベストなものを見つけることは難しいと思うが、必要であれば提案していくことが大切。行きは家の電話でデマンドを利用できるが、帰りは携帯がないので予約が取れないといった状況もある。代わりに予約してあげられるシステム等助け合える環境が必要だと思う。

9 その他

(1) バス運転手合同説明会の開催について

バス運転手合同説明会の開催について、別紙資料により公益社団法人愛知県バス協会より説明した。

<以下、委員意見等>

副 座 長： 東京オリンピック景気が終わり、仕事が減る。仕事を必要としている人にうまく呼びかけることでより多くの人が集まるのではないか。

委 員： まずは知っていただくことが大切。興味を持っていただければと思う。中部運輸局でも 9/17 に女性限定運転手体験会を行う。運転手はやめていく方が多く、ヒヤリハット等によるストレスを抱えながら運転している方が多い。そのストレスを少しでも和らげることで、事故も減少していく。親しむ日のイベントでもぜひ映像を流していただくことで住民の意識を向上させていただきたい。

座 長： 職場でもこのような取り組みやお話を積極的にしていってほしい。

10 連絡事項

次回会議（平成 30 年度第 3 回）は日程が決定次第連絡する。